

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷2-40-9
 ニュー赤門ビル4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第246号

平成20年(2008年)7月刊

1. 第56回(平成22年度)秋期特別学術集会会長ならびに第100回(平成23年度)学術集会会長の募集について(公募のお知らせ)

社団法人日本病理学会は、第56回(平成22年度)秋期特別学術集会会長ならびに第100回(平成23年度)学術集会会長を以下のとおり募集いたします。

学術評議員各位

平成20年7月

社団法人日本病理学会

理事長 長村 義之

日本病理学会秋期特別学術集会(秋期特別総会)の会長ならびに学術集会(春期総会)の会長は、定款施行細則の定めるところにより、いずれも理事会が選考し、総会において決定しています。

ここに、第56回(平成22年度)秋期特別学術集会会長ならびに第100回(平成23年度)学術集会会長を、下記の要領により募集いたします。

記

1. 応募は自薦であること。
2. 応募者は、第56回秋期特別学術集会会長の場合は平成22年11月1日に、また、第100回春期学術集会会長の場合は平成23年4月1日にそれぞれ満65歳以下の日本病理学会学術評議員であること。
3. 第56回(平成22年度)秋期特別学術集会会長の応募は、関東地区以外からの限定とすること(なお開催地は、会長所属機関と異なる利便性の高い場所を選択することもできる)。
4. 応募者は、日本病理学会学術集会改革案(平成18年5月1日決定 会報221号平成18年6月掲載)の主旨を踏まえて、所定の用紙に学術集会に対する考え方、学術集会の具体的な実行計画、日本病理学会及び関連学会において近年に行った主要な学術活動等を記載すること。
5. 応募の締切りは、平成20年9月30日(消印有効)ま

でとすること。

なお、所定用紙の交付または本件についての質問がありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

2. 理事会、学術評議員会および総会

平成20年2月27日に東京・学士会分館、および5月14日にホテル日航金沢にて理事会が開催され、5月15日には学術評議員会・病理専門医部会、5月16日には総会が開かれた。総会の席上で、第9回(平成19年度)学術奨励賞授賞式が行われた。

これらの理事会、学術評議員会および総会では、理事長、委員会委員長および部会長の報告があった。

協議事項としては、総会においては平成19年度事業報告並びに収支決算報告、新名誉会員23名の推戴者並びに新学術評議員33名の候補者が協議され、それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

このほか、理事会では、常置委員会学術評議員新委員の選出、平成19年度下期の新入会員43名(年度合計155名)が、それぞれ原案のとおり承認された。

また、学術評議員会では、「若手のリクルートに関する活動・100周年記念事業・病理学会機構改革」(深山企画委員長)などが、病理専門医部会では、「病理関係診療報酬の改定について」(稲山社会保険委員長)など、それぞれ報告・討議が行われた。

3. 学術集会

(1) 第97回総会(平成20年度)

金沢大学を世話機関として中沼安二会長、大井章史副会長のもとで、平成20年5月15日(木)～5月17日(土)の3日間、石川県立音楽堂他にて開催された。

宿題報告は、安井 弥教授(広島大学)による「胃癌の Transcriptome dissection—組織からのシーズ発見とその診断・治療への展開」、佐藤昇志教授(札幌医科大学)による「ヒトがん免疫制御の分子病理学的基盤」、岩崎 宏教授(福岡大学)による「軟部腫瘍の病態—日常の診断から実験的探索へ—」の3題であった。

特別講演は、岡本 宏名誉教授(東北大学)による「細胞の死と再生からの人の生死まで」、Linda Ferrell 博士

(University of California, San Francisco) による「Non-alcoholic Steatohepatitis」の2題、教育講演は、船橋 徹教授（大坂大学）による「メタボリックシンドロームとアディポサイトカイン」、中沼安二教授（金沢大学）による「IgG4 関連硬化性疾患の病理」の2題が行われた。一般演題は1,048題が発表された。

このほかシンポジウム3件、ワークショップ9件、ランチョンセミナー12件、コンパニオンミーティング1件の発表と討論があった。学生ポスター発表、および学術奨励賞受賞者ポスター発表も行われた。

また、系統的病理診断講習会（肝炎、肝血行障害・炎症、肝腫瘍、胆嚢）および臓器別病理診断講習会（肝・胆嚢、中枢神経系、口腔・頸頭部、造血器・リンパ節）が開かれた。

(2) 今後予定されている総会は以下のとおりである。

1) 第54回（平成20年度）秋期特別総会

世話機関：愛媛大学

会長：植田規史教授

会期：平成20年11月20日（木）～21日（金）

会場：松山市総合コミュニティセンター

2) 第98回（平成21年度）総会

世話機関：京都大学

会長：真鍋俊明教授

会期：平成21年5月1日（金）～3日（日）

会場：京都国際会館

3) 第55回（平成21年度）秋期特別総会

世話機関：防衛医科大学校

会長：松原 修教授

会期：平成21年11月19日（木）～20日（金）

会場：九段会館（東京）

4) 第99回（平成22年度）総会

世話機関：順天堂大学

会長：樋野興夫教授

会期：平成22年4月27日（火）～29日（木）

会場：新宿京王プラザホテル

4. 常任理事会報告（金沢 総会時）

1. 長村義之理事長（理事長報告 広報委員会 国際交流委員会 教育委員会 支部委員会）

① 理事長報告

1) 診療科標榜として病理診断科が認められた。会員向け、国民向けの記事をホームページに掲載している。本病理学会でワークショップを開催する。また、口腔病理部会から、標榜科および診療報酬改定について検討して欲しいとの要望があった。

2) 平成20年度の診療報酬改定について、13部として病理診断が創設された。また平成22年度の診療報酬改定に向けては案を整理し、抜本的な改定

を目指すこととする。

3) 情報の公開 Up date については常任理事会の議事録をその都度理事に発信することとした。

4) 1月30日に文部科学省医学教育課長と面談した。病理学の大学院への助成を要望した。

5) 国立がんセンターよりコンサルテーションシステムの活用について相談があったので、医療業務委員会コンサルテーション小委員会にて検討中である。

6) 新公益法人制度についてはアドホックの委員会を発足させ勉強をしていく。

7) 2月26日厚生労働省担当官と面談し、厚生労働大臣への要望書の相談を行った。

要望1：病理医育成の必要性 要望書2：病理解剖費用の公費負担の要求 である。

8) 学術会議公開講演会“医療関連死を考える－解剖に基づく新たな死因究明制度”について

3月21日開催し、一般の方も含め、170名の参加があった。

9) 若手医師のリクルートに関連しては、日本病理学会研修施設に対して研修アンケートを施行し、情報をまもなくHPへ掲載する予定。

10) 医学生のためのレジナビフェア（7月13日 東京会場）に参加することとした。

11) 3月1日より施行されているホルマリンの規制について、谷山清己剖検・病理技術委員会委員長および根本則道医療業務委員長名で、ホームページに掲載した。

12) Pathology International のオンライン化につき、一部紙媒体を残す場合とオンラインオンリーにした場合の刊行費について、ワイリー社の担当者に確認しているところである。

13) 平成20年度常置委員会委員が決定し、また「病理診断体制専門委員会」を医療業務委員会下でなく病理専門医制度運営委員会の下に改組することとした。

14) 理事長直轄の人材育成委員会を正式に発足させた。

15) 地域病理ネットワーク小委員会については活動内容が他の委員会と重複する点もあり、当分の間休止の方向とする。そのほか「小」委員会とある委員会から「小」を除くことを決定した。

16) 市民公開講座検討委員会については「企画委員会」の下に位置づけ、岡田理事を委員長とし構成委員を了承した。

17) 死因究明に関する厚生労働省3次試案については、理事の意見を聞いてパブコメを4月内に提出

した。

- 18) 日衛協, 日臨技とは今後も継続して話し合いの会合をもつことを確認した。
- 19) タイ国プリンス マヒドール アウォードに前田昭太郎先生(日本医大多摩永山病院病理部)を推薦した。
- 20) ICD 11の対応委員として根本則道先生(剖検情報委員長)を推薦した。
- 21) 日本医学会の評議員に長村義之理事長, 連絡委員に岡田保典副理事長, 用語委員に坂本穆彦理事, 用語代委員に森永正二郎学術評議員を推薦した。

② 広報委員会

- 1) 会員がPINをOnline閲覧する際の本学会会員専用ページからのアクセスを簡略化することとした。
- 2) 本年より「病理学会事業カレンダー」の運用を開始した。
- 3) HPの情報量が増えたので古い情報を別ファイルにする。
- 4) 会務報告を会報と同様に平成13年に遡ってPDFファイルによりHPに掲載する予定である。

③ 教育委員会

- 1) 病理各論コア画像の改訂を行うこととした。その際, HPを通じて会員の意見を伺い, 提供していただける画像を公募することとした。また, この改訂に参加する若手病理医の公募もすることとした。
- 2) コア画像の改訂と合わせ画像の説明と, CBT対応の問題作成を検討することとした。
- 3) 学術集会での病理教育ワークショップ企画を推進する。また学生発表をpromoteするため, 本年は3年連続して演題発表をしている学生に対して, 教育委員会として特別表彰を行う。
- 4) 卒後教育を担当する委員会とも密に協力し学部教育を充実させることとする。

④ 国際交流委員会

- 1) 国際交流事業を改めて会員へ周知徹底することとした。
- 2) 事業の見直しについて
 - i) ドイツとの交流について
日本からの派遣は続いているがドイツからの派遣はない。イギリスとの関係のように学会でのシンポジスト・講演者の交流という形ではどうか検討した。
 - ii) 海外派遣事業の見直しについて検討する。
- 3) アジアとの交流を検討する。
- 4) 海外参加事業については応募のあった米盛葉子

先生の1件を了承した。

⑤ 支部委員会

- 1) モデル事業について, 現在は都道府県単位でなされているが, 支部単位での対応などについても発言があった。
- 2) 精度管理向上のため, 支部でのコンサルテーションも活発化をはかっている。
- 3) がん対策推進基本計画について支部単位で各都道府県への働きかけをしていただきたいとの発言があった。
- 4) 病理医の適正配置について引き続き検討を行うこととした。

2. 深山正久副理事長(企画委員会)

- ① 「若手医師確保に関する委員会」は新たに発足した「人材育成委員会」の下で活動することとなった。人材育成委員会では, 女性医師の問題についてアンケートをとる予定である。
 - ② 診断病理サマーフェストは2008年「肺疾患」をテーマに, 8月23日・24日に京都で開催される。
 - ③ 百周年記念行事については, 1-2ヶ月のうちに, 会員に向けて趣意書を出し, 記念事業の公募も行う予定である。刊行物の策定も準備を始めるところである。100周年記念式典は2011年の第100回日本病理学会総会時に行う。
 - ④ 市民公開講座検討委員会を岡田委員長の下発足させた(学術委員会と企画委員会を母体に)。
 - ⑤ 病理学会機構改革についてはWGあるいは委員会を立ち上げ, 新公益法人への移行, 学術評議員会のあり方(アンケート), 理事選挙改革等を検討していくこととしている。
- ## 3. 岡田保典副理事長・常任理事(学術委員会・研究推進委員会・編集委員会)
- ① 学術委員会
 - 1) 宿題報告の推薦・応募締め切りについては, 学術評議員による宿題報告担当者の推薦(7月末)の後に, 学術委員会から推薦された方に応募の依頼をする。また, 推薦の有無にかかわらず, 最終的な応募締め切りは8月末である。
 - 2) Pathol Intのon-line化: On-line化により, 現時点では約700万円の値下げの回答が出版社よりあった。その場合, 冊子希望者は8,000円で購入が可能である。これを会費に換算すると1,700円程度の年会費の値下げが可能となる。これらについては, 2年以内に結論を出す必要がある。また, 会報のメーリングリストによる配信の可能性を検討している。
 - 3) 市民公開講座は, 病理学会として学術成果も含

めて「病気についての市民公開講座」などの開催で社会に広くアピールすることも考えて、今後、「市民公開講座検討委員会」で審議する。

② 研究推進委員会

- 1) 第5回病理学会カンファレンスは、梅澤明弘国立成育医療センター部長を世話人に平成20年8月1・2日「がんと幹細胞」をテーマに湘南国際村センターにて開催される。第6回病理学会カンファレンスは、加藤光保筑波大学教授が世話人で開催される。
- 2) 第8回技術講習会は北川昌伸東京医科歯科大学教授が世話人で、平成20年度秋期特別総会の前日に、松山にて開催される。

③ 編集委員会

- 1) Pathology International に関しては、投稿数は年間253編程度で10%減であった。今年は微増傾向であるが、より多くの投稿をお願いしたい。なお、2007年のインパクトファクターが1.371と上昇しているとの報告が、後日出版社よりあった。
- 2) 「診断病理」のon-line化について、経費の軽減を試算する。
- 3) 剖検輯報は第49輯の印刷中であり、17,785件の剖検例の掲載となる。科学研究費が採択されなかったため、次回に向けて対策を検討し申請することとする。

4. 黒田 誠常任理事（病理専門医部会）

① 病理専門医制度運営委員会

- 1) 病理診断科については、本年4月1日より診療標榜科として承認されている。今学会会期中にも、今後の対応についてワークショップを開催する。
- 2) 施設審査委員会については、認定施設と登録施設の更新審査を行った。専任指導医の不在や剖検例の基準以下のため、若干の更新不可があった。
- 3) 資格審査委員会については、今年7月26日・27日東京医科歯科大学にて開催される専門医試験の受験資格の審査を行った（申請者93名）。組織診断に関する講習会の受講証明や、業績につき若干の疑義があり、問い合わせをすることとしている。
- 4) 病理診断講習会については、総会長の意向を受け講習内容を組み立てていく方向である。
- 5) 病理専門医部会のあり方については、全国大学病院病理部連絡会議と連携も考え、今後検討することとした。
- 6) 生涯学習単位申請があった「婦人科病理研究会」と「CAP-PIP」の2件を承認した。

② 口腔病理専門医制度運営委員会

- 1) 口腔病理専門医資格審査委員会では、7名の受

験資格審査を行った。

- 2) 口腔病理専門医研修カリキュラムの検討をはじめた。

③ 医療業務委員会

- 1) 社会保険委員会（稲山嘉明委員長）
第13部の創設の実現と、それに関する文言の整理を行った。
- 2) コンサルテーション委員会（森永正二郎委員長）
国立がんセンターとの協力関係について検討している。
- 3) 剖検・病理技術委員会（谷山清己委員長）
ホルマリンについて、HPに掲載した。
- 4) 精度管理委員会（羽場礼次委員長）
剖検依頼書・報告書のガイドライン策定を行っている。
- 5) がん取扱い規約委員会（坂本穆彦委員）
本年度は、乳がん・卵巣がん・口腔粘膜がんの取扱い規約改定が検討されている。
- 6) 病理診断体制専門委員会（水口國雄委員長）
本年度より、病理専門医制度運営委員会の下で活動をする。病院における病理診断科のあり方および開業、衛生検査所との関係等を検討していくこととしている。

5. 平成19年度事業報告並びに決算報告

平成19年度事業報告並びに収支決算報告が以下のとおりである。当期収支差額が赤字であったのは、法人税の発生と、剖検輯報の科研費申請が不採択であったことが大きな原因である。法人税については、以前は税務署からの指導はなかったが1~2年前より各学会に調査が入るようになり、このたび当学会に調査・指導がなされた。収益事業として指摘されたのは、学術集会におけるランチョンセミナーや企業展示、本部会計のうち医師賠償責任保険事務収入、機関紙のロイヤリティ・著作権使用料などである。過去3年分（平成16年・17年・18年）の法人税の追徴課税は繰越金から納税することとする。協議の結果、提案は承認された。また、各種団体との交渉ごとに対しては「渉外費」を支出してはどうかとの会場からの提案があり、了承された。

(1) 平成19年度事業報告

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 「第96回日本病理学会総会」（於大阪市・青笹克之会長）を開催
- (2) 「第53回日本病理学会秋期特別総会」（於東京都・向井清会長）を開催

2. 研究会，講習会等の開催
 - (1) 「第5回日本病理学会カンファレンス（2007 旭川）」を実施
 - (2) 細胞診講習会（於東京都）を実施
 - (3) 病理診断講習会（於大阪市）を実施
 - (4) 病理技術講習会（於東京都）を実施
 - (5) 診断病理サマーフェスト（於東京都）を実施
 - (6) 各支部会における「学術・研修集会」等を実施
- II. 学会誌，学術図書等の発行
 1. 「日本病理学会会誌」（第96巻第1～2号）を発行
 2. 「Pathology International」（第57巻第4～12号，第58巻第1～3号）を発行
 3. 「診断病理」（第24巻第2～4号，第25巻第1号）を発行
 4. 「日本病理学会会報」（第231号～242号）を発行
 5. 「病理専門医部会報」（2007年第2～4号，2008年第1号）を発行
- III. 研究および調査
 1. 「日本病理剖検輯報」第48輯（平成17年症例）を発行
 2. 剖検輯報編集方法を変更・充実
 3. 剖検記録データベースを再構築
- IV. 病理専門医等の資格認定
 1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於東京都）を実施
 2. 病理専門医を広告
 3. 「病理専門医研修手帳」の実施
 4. 研修施設を認定
- V. 学術団体との協力，連絡
 1. 他学会との会議共催および後援（国内）を多数実施
 2. 腫瘍取扱い規約の改訂を検討
 3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣，学術交流を実施
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流を実施
- VI. その他目的を達成するために必要な事業
 1. 日本病理学会学術奨励賞を4名に授与
 2. 海外病理学会への参加支援
 3. 病理学教育を考えるワークショップ（於豊明市）を実施
 4. 病理診断コンサルテーションシステムを充実
 5. インターネットホームページを充実
 6. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施
 7. 病理専門医制度運営，口腔病理専門医制度運営，医療業務等の各種委員会を開催

(2) 平成19年度収支決算報告

1) 収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	1,000	59,820	58,820
受取利息収入	1,000	59,820	58,820
2. 会費収入	73,430,000	70,590,000	△ 2,840,000
正会員・学術評議員会費	31,000,000	28,257,000	△ 2,743,000
同終身会費	3,000,000	3,600,000	600,000
同一般会員会費	27,000,000	27,530,000	530,000
学生会員会費	30,000	5,000	△ 25,000
賛助会員会費	250,000	150,000	△ 100,000
機関会員会費	450,000	380,000	△ 70,000
病理専門医部会員会費	11,700,000	10,668,000	△ 1,032,000
3. 事業収入	110,500,000	130,376,026	19,876,026
学術集会収入	70,000,000	86,315,200	16,315,200
論文掲載料収入	3,000,000	934,054	△ 2,065,946
広告料収入	1,000,000	840,000	△ 160,000
刊行物発行収入	15,000,000	14,054,000	△ 946,000
専門医制度収入	15,000,000	16,942,000	1,942,000
病理専門医部会収入	4,000,000	4,282,058	282,058
講習会等収入	500,000	4,584,000	4,084,000
賠償責任保険事務費収入	2,000,000	2,424,714	424,714
4. 補助金収入	11,000,000	3,100,000	△ 7,900,000
学術振興会科学研究費	10,800,000	3,100,000	△ 7,900,000
日本医学会補助金	200,000	0	△ 200,000
5. 繰入金収入	2,500,000	2,630,000	130,000
学術医療基金繰入金収入	2,500,000	2,630,000	130,000
6. 雑収入	1,505,000	3,533,962	2,028,962
受取利息収入	5,000	413,634	408,634
雑収入	1,500,000	3,120,328	1,620,328
当期収入合計 (A)	198,936,000	210,289,808	11,353,808
前期繰越収支差額	39,758,000	62,025,620	22,267,620
収入合計 (B)	238,694,000	272,315,428	33,621,428

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
II. 支出の部			
1. 事業支出	157,800,000	170,948,289	13,148,289
学術集会経費	71,800,000	88,986,585	17,186,585
学会誌発行経費	37,000,000	33,870,190	△ 3,129,810
会報発行経費	3,500,000	3,152,100	△ 347,900
剖検輯報刊行経費	14,000,000	10,038,952	△ 3,961,048
専門医制度運営経費	8,500,000	8,758,892	258,892
病理専門医部会経費	8,000,000	8,418,356	418,356
支部運営経費	6,000,000	5,850,000	△ 150,000
学術奨励等経費	4,500,000	4,802,761	302,761
講習会等経費	1,000,000	3,965,554	2,965,554
各種委員会経費	3,500,000	3,104,899	△ 395,101

2. 管理費	32,030,000	41,192,500	9,162,500
人件費	15,000,000	13,738,786	△ 1,261,214
福利厚生費	1,500,000	2,158,686	658,686
交通費	500,000	270,660	△ 229,340
通信運搬費	3,000,000	3,357,485	357,485
会議費	1,500,000	1,580,242	80,242
印刷費	2,000,000	2,805,112	805,112
備品費	200,000	0	△ 200,000
消耗品費	400,000	642,590	242,590
光熱費	230,000	221,642	△ 8,358
賃借料	2,600,000	2,705,433	105,433
諸会費	800,000	900,000	100,000
補助金	200,000	200,000	0
修繕費	100,000	0	△ 100,000
嘱託料	1,500,000	1,959,500	459,500
租税公課(消費税等)	2,000,000	2,415,200	415,200
(法人税等)	0	7,621,821	7,621,821
雑費	500,000	615,343	115,343
3. その他	4,300,000	5,424,583	1,124,583
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,600,000	0
学術医療基金引当預金 繰入支出他	2,700,000	3,824,583	1,124,583
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000
当期支出合計(C)	195,130,000	217,565,372	22,435,372
当期収支差額(A-C)	3,806,000	△ 7,275,564	△ 11,081,564
次期繰越収支差額(B-C)	43,564,000	54,750,056	11,186,056

2) 正味財産増減計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで
(単位 円)

科目	金額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
退職給与引当預金積立金額	1,600,000	
学術医療基金引当預金積立額	3,785,449	
国際交流基金引当預金積立額	39,134	5,424,583
2. 負債減少額		
増加額合計		5,424,583
II. 減少の部		
1. 資産減少額		0
当期収支差額	7,275,564	
学術医療基金引当預金取崩	2,630,000	9,905,564
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	1,600,000	1,600,000
減少額合計		11,505,564
当期正味財産減少額		6,080,981
前期繰越正味財産額		230,533,988
期末正味財産合計額		224,453,007

3) 貸借対照表

平成20年3月31日現在

(単位 円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	92,104,369		
前払金	195,300		
立替金	1,215,000		
未収金	154,943		
流動資産合計		93,669,612	
2. 固定資産			
基本財産	30,000,000		
その他の固定資産			
特別財産	138,687,994		
保証金	930,000		
退職給与引当預金	14,300,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	154,002,951		
固定資産合計		184,002,951	
資産合計			277,672,563
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	17,100,000		
未払金	21,671,616		
預り金	147,940		
流動負債合計		38,919,556	
2. 固定負債			
退職給与引当金	14,300,000		
固定負債合計		14,300,000	
負債合計			53,219,556
III. 正味財産の部			
正味財産			224,453,007
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期減少額)			(6,080,981)
負債及び正味財産合計			277,672,563

4) 財産目録

平成20年3月31日現在

(単位 円)

科目	金額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金			
現金 現金手許有高	266,853		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	88,891,944		
普通預金			
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	78,909		
定期預金 みずほ銀行本郷支店	58,204		
郵便振替貯金	2,808,459		
現金預金合計	92,104,369		
(2) 前払金			
家賃	195,300		

前払金合計	195,300		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	154,943		
(4) 立替金			
P.I.カラー頁印刷費	1,215,000		
流動資産合計		93,669,612	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金			
三菱東京UFJ銀行本郷支店	30,000,000		
(2) その他の固定資産			
① 特別財産			
学術医療基金引当預金 (普通・三菱東京UFJ銀行 春日支店他)	118,596,223		
国際交流基金引当預金 (普通・りそな銀行本郷支店)	20,091,771		
特別財産合計	138,687,994		
② 保証金	930,000		
③ 退職給与引当預金	14,300,000		
④ 什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	154,002,951		
固定資産合計		184,002,951	
資産合計			277,672,563

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成20年度会費・部会費等	17,100,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	6,398,871		
日病会誌印刷費	5,443,820		
細胞診講習会経費	1,107,104		
未払消費税	1,100,000		
未払法人税等	7,621,821		
未払金合計	21,671,616		
(3) 預り金			
源泉所得税等	147,940		
流動負債合計		38,919,556	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	14,300,000		
固定負債合計		14,300,000	
負債合計			53,219,556
正味財産			224,453,007

6. 技術講習会—分子病理学の基礎技術—8の受講者の募集について

—病理を志すものが知っておくべき病理技術— 受講者募集

近年、様々な疾患に関する分子生物学的な情報が飛躍的

に増え続け、病理診断に携わる者も多く、新しい知識を要求される場面が多くなってきました。今後さらにこのような傾向は強くなり、伝統的な病理形態学から得られる知見と新しい情報との融合が必要とされていくこととされます。これからの時代、病理学者は先端的研究をするとともに、伝統的な技術と新しいテクノロジーの両方を用いて、これまでに蓄積された情報と医科学の最先端の知見を結びつけるという非常に重要な役も担うものと考えます。

そこで第8回日本病理学会病理技術講習会では、最新の病理技術・分子病理学といった key word にとらわれず、病理学者が知っておくべき技術について伝統的な手法から最新の技法までを広範囲にご紹介することになりました。まず前半で、最新の免疫組織化学的所見の解釈法、進歩の著しい神経系疾患の病態解析に古典的染色法がどれほど役に立つか、LAMP法の解説など、比較的どこの研究室あるいは病理検査室でも応用可能な技術の紹介と、病態解析、病理診断への応用について概説していただく予定です。日常の病理診断にも有用な情報が間違いなく得られるものと思います。

また後半では、最新の技法を駆使して新たな研究分野を開拓され、素晴らしいお仕事を次々と展開されているお二方に、技術的な側面を含めてご研究の一端を病理医に対するメッセージとして紹介していただきたいと思います。日頃あまりなじみのないお話かも知れませんが、形態学を基本にした診断や病態解析を志す私たちに、大きなインパクトを与えてくれるものと確信しています。

下記の要領で参加者を募集いたしますので、会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。なお、本講習会の受講により日本病理学会病理専門医資格更新のための生涯学習単位5単位が認められます。また、病理専門医受験資格の業績3編のうちの1編として充当することができます。

記

- 日時：2008年11月19日（水）
第54回日本病理学会秋期特別総会前日
13:00-17:20
- 場所：松山市総合コミュニティセンター（第54回秋期特別総会会場）
- 演題と演者
 - 「これからの免疫学的表現型検索—悪性リンパ腫の診断に際して」
一迫 玲（東北大学・血液病理学分野）
 - 「銀染色で区別する神経変性病変—温故知新一」
内原 俊記（東京都神経科学総合研究所・神経学）
 - 「LAMP法の迅速病理診断への応用」

池田 聡 (土浦協同病院・病理部)

(4) 「バイオイメージングの基礎と診断への応用」

大場 雄介 (北海道大学・病態医科学分野)

(5) 「オートファジー：新しい生命現象とその検出方法」

水島 昇 (東京医科歯科大学・細胞生理学分野)

プログラムの詳細につきましては、日本病理学会ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp>) をご参照ください。

4. モデレーター：北川昌伸 (東京医科歯科大学・包括病理学分野)

5. 講義担当者：5名

6. 募集人員：120名

7. 受講料：5,000円 (ハンドアウト代含む)

8. 応募、問い合わせ、参加決定：

- (1) 受講希望者は、受講を希望する旨とともに、氏名、所属、会員・非会員の区別、連絡先 (住所、電話番号、FAX番号、E-mail address等) を記載の上、以下の応募先までお申し込みください。

応募先：社団法人日本病理学会事務局

TEL：03-5684-6886 FAX：03-5684-6936

E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp

内容の問い合わせ先：北川昌伸 (東京医科歯科大学・包括病理学分野)

TEL：03-5803-5173 FAX：03-5803-0123

E-mail：masa.pth2@tmd.ac.jp

- (2) 学会員は先着順に参加決定いたします。非会員は10月15日時点での空き分について参加を受け入れます。

7. 第98回日本病理学会春期総会 (2009年 京都) コンパニオン・ミーティング募集

来春開催予定の第98回日本病理学会春期総会 (2009年5月1日～3日、京都国際会館)において、病理関連の学会・研究会に会議室、時間枠を提供し、病理医を対象に診断病理学を主眼としたコンパニオン・ミーティングを開催する予定です。開催を希望される研究会・学会は、開催概要 (テーマ、演者およびその内容) を8月末日までに総会事務局にメールでお送り下さい。5～10会場、各1時間を無料で提供します。なお、申し込みが予定枠をこえる場合には、開催母体の活動実績、開催概要をもとに総会事務局において選考いたしますので予めご了承下さい。

連絡先：第98回日本病理学会春期総会事務局 三上芳喜
京都大学病院病理診断部 TEL 075-751-3488
(直通) FAX 075-751-3499

Email：mika@kuhp.kyoto-u.ac.jp

8. 各種委員会の委員構成 (平成20年4月現在)

委員の一部に交代があり、委員会の構成は以下のとおりとなった。

1. 企画委員会

深山正久 (委員長)、岡田保典、真鍋俊明、黒田 誠、坂本穆彦、覚道健一、松原 修、本山悌一、上田真紀子、大橋健一

1-2. サマーフェスト委員会

真鍋俊明 (委員長)、福嶋敬宜、濱田智美、久岡正典、平戸純子、清川貴子、田丸淳一

1-3. 市民公開講座検討委員会

岡田保典 (委員長)、深山正久、羽場礼次、樋野興夫、中山 淳、落合淳志、坂元亨宇、安井 弥

2. 広報委員会

坂本穆彦 (委員長)、岡田保典、真鍋俊明、黒田 誠、深山正久、向井 清、居石克夫、上田真喜子、山口 朗、藤井丈士、望月 真、谷山清己

3. 財務委員会

真鍋俊明 (委員長)、岡田保典、黒田 誠、深山正久、坂本穆彦、松原 修、向井 清

4. 学術委員会

岡田保典 (委員長)、真鍋俊明、黒田 誠、深山正久、坂本穆彦、青笹克之、佐藤昇志、居石克夫、山口 朗、内藤 真、安井 弥、樋野興夫、能勢真人、落合淳志、坂元亨宇、当該年春期総会会長 (樋野興夫)、秋期特別総会会長 (松原 修)

4-2. 学術奨励賞選考委員会

青笹克之 (委員長)、深山正久、井内康輝、松原 修、坂本穆彦、向井 清、岡田保典、覚道健一、黒田 誠

5. 研究推進委員会

青笹克之 (委員長)、深山正久、岡田保典、加藤光保、横崎 宏、松川昭博、笹野公伸、高桑徹也、恒吉正澄

6. 編集委員会

向井 清 (委員長)、深山正久、坂本穆彦、真鍋俊明、岡田保典、青笹克之、覚道健一、根本則道、高橋雅英、向井万起男

6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英 (委員長)、藤本純一郎、福嶋敬宜、原田孝之、廣瀬隆則、石田 剛、城 謙輔、森永正二郎、本山悌一、向井 清、中谷行雄、中里洋一、野口雅之、落合淳志、小田義直、岡田保典、大島孝一、坂元亨宇、佐野壽昭、佐多徹太郎、清水道生、滝澤登一郎、堤 寛、都築豊徳、上田真喜子、梅村しのぶ、横山繁生、吉野 正

6-3. 剖検情報委員会

根本則道 (委員長)、藤原 恵、市原 周、楠美嘉晃

7. 病理専門医制度運営委員会

- 黒田 誠 (委員長), 根本則道, 覚道健一, 白石泰三, 橋本 洋, 清水道生, 田村浩一, 泉 美貴, 森永正二郎, 森谷卓也, 村田哲也, 仁木利郎, 向井万起男
- 7-2. 病理専門医試験委員会
仁木利郎(委員長), 梅村しのぶ, 森 正也, 内藤善哉, 菅間 博, 小西 登, 野口雅之, 大橋健一
- 7-3. 病理専門医資格審査委員会
森永正二郎(委員長), 泉 美貴, 石田 剛, 岩田 純, 都築豊徳, 野口雅之
- 7-4. 病理専門医施設審査委員会
橋本 洋 (委員長), 村田哲也, 長谷川匡, 中村栄男, 中村眞一, 大倉康男
- 7-5. 「診断病理」編集委員会
向井万起男(委員長), 笹島ゆう子(副), 布村眞季(副), 安田政実 (副), 長谷川匡, 鬼島 宏, 内藤善哉, 伊藤浩史, 横崎 宏, 松川昭博, 横山繁生(以上支部編集委員)
- 7-6. 病理専門医部会報編集委員会
清水道生 (委員長), 堤 寛 (副), 望月 眞 (副), 佐藤昌明, 鬼島 宏, 梅村しのぶ, 福留寿生, 大山秀樹, 藤原 恵, 小田義直
- 7-7. 病理診断講習会委員会
清水道生 (委員長), 森谷卓也, 福嶋敬宜, 鷹橋浩幸, 笹島ゆう子, 小田義直
- 7-8. 病理診断体制専門委員会
水口國雄 (委員長), 羽山忠良, 岸川正大, 小松明男, 大橋健一, 嶋田裕之, 田村浩一, 安田政実, 黒田 誠, 根本則道, 谷山清己, 佐々木毅
8. 医療業務委員会
根本則道 (委員長), 真鍋俊明, 本山悌一, 白石泰三, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一, 松野吉宏, 清水道生
- 8-2. コンサルテーション委員会
森永正二郎(委員長), 森谷卓也, 清川貴子, 長嶋洋治, 都築豊徳, 吉野 正
- 8-3. 社会保険委員会
稲山嘉明 (委員長), 逸見明博, 熊坂利夫, 森 正也, 大倉康男, 佐々木毅, 横山宗伯, 嶋田裕之, 島村和男 (顧問: 原 正道, 水口國雄)
- 8-4. 精度管理委員会
羽場礼次 (委員長), 鬼島 宏, 長嶋洋治, 大林千穂, 清水禎彦, 和田 了, 柳井広之, 木佐貫篤
- 8-5. 剖検・病理技術委員会
谷山清己 (委員長), 明石 巧, 筑後孝章, 長谷川剛, 万代光一, 仲里 巖, 清水秀樹, 山城勝重, 柳井広之
- 8-6. 癌取扱い規約委員会
坂本穆彦 (委員長), 伊藤以知郎, 森永正二郎
9. 口腔病理専門医制度運営委員会
山口 朗 (委員長), 覚道健一, 井上 孝, 出雲俊之, 豊澤 悟, 仙波伊知郎, 高田 隆, 田中陽一
- 9-2. 口腔病理専門医試験委員会
出雲俊之 (委員長), 朔 敬, 山口 朗, 井上 孝, 豊澤 悟
- 9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会
高田 隆 (委員長), 仙波伊知郎
10. 教育委員会
覚道健一 (委員長), 井内康輝, 寺田信行, 羽場礼次, 伊藤浩史, 下 正宗, 中島 孝, 若狭朋子
11. 国際交流委員会
松原 修 (委員長), 佐藤昇志, 荒川 敦, 久岡正典, 清川貴子, 笹野公伸, 都築豊徳
12. 支部委員会
居石克夫 (委員長), 佐藤昇志, 本山悌一, 根本則道, 白石泰三, 寺田信行, 井内康輝
13. 倫理委員会
井藤久雄 (委員長), 岡崎悦夫, 武村民子, 堤 寛, 伊藤雅文, 本山悌一, 長嶋洋治, 増井 徹(外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)
14. リスクマネジメント委員会
井内康輝(委員長), 野々村昭孝, 長村義之, 坂本穆彦, 児玉安司 (外部委員)
15. 医療関連死関係専門委員会
黒田 誠 (委員長), 深山正久, 真鍋俊明, 森 茂郎, 根本則道, 野口雅之, 岡崎悦夫, 加治一毅
16. プログラム推進委員会
青笹克之 (委員長), 深山正久, 黒田 誠, 岡田保典, 村田哲也, 清水道生, 梅村しのぶ
17. 人材育成委員会
上田真喜子(委員長), 深山正久, 向井 清, 坂本穆彦, 羽賀博典, 渡邊みか, 梅村しのぶ, 大井章史, 武島幸男, 小田義直, 大橋健一
- 17-2 若手医師確保に関する委員会
大橋健一 (委員長), 羽場礼次, 茅野秀一, 鬼島 宏, 北川昌伸, 長嶋洋治, 笹島ゆう子, 鈴木 貴, 田村浩一, 谷山清己, 伊倉義弘, 森井英一, 豊國伸哉
9. 平成 20 年度病理専門医研修施設 (認定施設) 更新
機関
(1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29 287
施設)
- 期間 2 年間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
第 1 回 認可 (30 施設)
認定番号 施設名
1001 市立札幌病院
2001 青森県立中央病院

2002	岩手県立中央病院	5011	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
2003	独立行政法人国立病院機構仙台医療センター	5014	大津赤十字病院
3004	千葉県がんセンター	5015	大阪厚生年金病院
3005	国立がんセンター中央病院	5016	国立循環器病センター
3006	東京厚生年金病院	6013	総合病院岡山赤十字病院
3007	国立国際医療センター		
3008	NTT 東日本関東病院	第7回	認可 (7 施設)
3009	東京都老人医療センター	認定番号	施設名
3010	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	2008	医療法人明和会中通総合病院
3012	聖路加国際病院	3011	東京通信病院
3014	同愛記念病院	3041	社会福祉法人三井記念病院
3015	武蔵野赤十字病院	3043	東京都立広尾病院
3016	川崎市立川崎病院	5018	松下電器健康保険組合松下記念病院
3017	横浜市立市民病院	6015	独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中 国がんセンター
3018	神奈川県立がんセンター	6016	愛媛県立中央病院
4001	新潟県立がんセンター新潟病院		
4002	静岡済生会総合病院	第9回	認可 (4 施設)
4004	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	認定番号	施設名
5002	京都第一赤十字病院	2010	(財) 太田総合病院附属太田西ノ内病院
5003	大阪赤十字病院	4021	名古屋掖済会病院
5005	天理よろづ相談所病院	4022	岐阜市民病院
5006	神戸市立中央市民病院	5023	兵庫県立がんセンター
6001	(財) 倉敷中央病院		
6002	岡山済生会総合病院	第11回	認可 (7 施設)
6003	独立行政法人国立病院機構岡山医療センター	認定番号	施設名
6004	県立広島病院	2011	八戸市立市民病院
6006	広島市立広島市民病院	3056	社会保険中央総合病院
6007	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター	3058	独立行政法人労働者健康福祉機構関東労災病院
		4028	岡崎市民病院
第3回	認可 (7 施設)	5028	医療法人同仁会耳原総合病院
認定番号	施設名	5029	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
1003	市立旭川病院	5030	京都民医連中央病院
1004	社団法人北海道勤労者医療協会勤医協中央病院		
3026	神奈川県立こども医療センター	第13回	認可 (7 施設)
6011	国家公務員共済組合連合会呉共済病院	認定番号	施設名
7004	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	2014	いわき市立総合磐城共立病院
7005	大分県立病院	3065	栃木県立がんセンター
7006	沖縄県立中部病院	3066	足利赤十字病院
		3067	前橋赤十字病院
第5回	認可 (11 施設)	3068	医療法人鉄蕉会亀田総合病院
認定番号	施設名	4031	愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院
1005	市立函館病院	5031	大阪警察病院
3032	東京都立駒込病院		
4011	静岡県立こども病院	第15回	認可 (8 施設)
4012	静岡市立静岡病院	認定番号	施設名
4014	三重県厚生農業協同組合連合会松阪中央総合病院	3024	自衛隊中央病院
5008	京都市立病院		

3074	千葉県こども病院
3075	財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター
4037	石川県立中央病院
5034	星ヶ丘厚生年金病院
5035	医療法人愛仁会高槻病院
7015	社会保険小倉記念病院
7016	飯塚病院

第17回 認可 (3施設)

認定番号	施設名
4040	新潟県立中央病院
4041	福井赤十字病院
5038	京都第二赤十字病院

第19回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
3038	国立国際医療センター国府台病院
3055	国家公務員共済組合連合会総合病院横須賀共済病院
3083	川口市立医療センター
3084	船橋市立医療センター
4013	岐阜県総合医療センター
4046	トヨタ記念病院
5042	(財)神戸市地域医療振興財団西神戸医療センター

第21回 認可 (9施設)

認定番号	施設名
2018	由利組合総合病院
2019	日本海総合病院
2020	鶴岡市立荘内病院
3087	総合病院取手協同病院
3088	成田赤十字病院
3089	東京医療生活協同組合中野総合病院
5004	大阪府立成人病センター
5045	特定医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院
5046	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

第23回 認可 (20施設)

認定番号	施設名
2028	財団法人星総合病院
3031	国保松戸市立病院
3042	東京都立豊島病院
3101	国保直営総合病院君津中央病院
3102	医療法人財団東京勤労者医療会東葛病院
3103	医療法人社団愛心会湘南鎌倉総合病院
4056	市立砺波総合病院
4057	特定医療法人慈泉会相澤病院
5052	市立長浜病院

5053	大津市民病院
5055	市立池田病院
5056	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
5057	市立堺病院
5058	市立泉佐野病院
5059	箕面市立病院
5060	公立学校共済組合近畿中央病院
5062	財団法人甲南病院
6029	香川医療生活協同組合高松平和病院
7023	長崎市立市民病院
7024	宮崎県立延岡病院

第25回 認可 (26施設)

認定番号	施設名
1015	市立室蘭総合病院
1016	北海道社会保険病院
1017	NTT 東日本札幌病院
1018	札幌社会保険総合病院
1019	JA 北海道厚生連札幌厚生病院
1021	独立行政法人労働者健康福祉機構釧路労災病院
1022	医療法人社団新日鐵室蘭総合病院
2030	秋田県厚生連平鹿総合病院
3108	上都賀総合病院
3109	独立行政法人国立病院機構高崎病院
3110	国立成育医療センター
4038	長野県厚生農業協同組合連合会北信総合病院
4052	焼津市立総合病院
4061	長野県厚生農業協同組合連合会篠ノ井総合病院
4063	福井県立病院
4064	富士宮市立病院
4065	県西部浜松医療センター
5027	(財)田附興風会医学研究所北野病院
5066	宝塚市立病院
5067	加古川市民病院
6030	鳥取県立中央病院
6031	住友別子病院
7028	福岡県済生会福岡総合病院
7029	熊本赤十字病院
7030	医療法人中部徳洲会中部徳洲会病院
7031	那覇市立病院

第27回 認可 (17施設)

認定番号	施設名
1025	社会福祉法人函館厚生院函館中央病院
2034	岩手県立胆沢病院
2035	財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
3120	春日部市立病院

3121 独立行政法人国立病院機構東京病院
 3122 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
 4069 掛川市立総合病院
 4070 静岡県立静岡がんセンター
 4071 春日井市民病院
 5001 独立行政法人国立病院機構京都医療センター
 5075 医療法人愛仁会千船病院
 5076 関西電力病院
 5077 大阪府済生会中津病院
 5078 医療法人明和病院
 7034 医療法人北九州病院北九州総合病院
 7035 独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院
 7036 社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院

第29回 認可 (124 施設)

認定番号 施設名

1026 市立釧路総合病院
 1901 旭川医科大学病院
 1902 北海道大学病院
 1903 札幌医科大学附属病院
 2037 財団法人大原総合病院
 2901 弘前大学医学部附属病院
 2902 秋田大学医学部附属病院
 2903 岩手医科大学附属病院
 2904 東北大学病院
 2905 山形大学医学部附属病院
 2906 福島県立医科大学附属病院
 3090 大和市立病院
 3132 国際医療福祉大学三田病院
 3133 国際医療福祉大学熱海病院
 3901 自治医科大学附属病院
 3902 獨協医科大学病院
 3903 群馬大学医学部附属病院
 3904 筑波大学附属病院
 3905 埼玉医科大学病院
 3906 防衛医科大学校病院
 3907 千葉大学医学部附属病院
 3908 順天堂大学医学部附属順天堂医院
 3909 慶応義塾大学病院
 3910 日本大学医学部附属板橋病院
 3911 日本医科大学付属病院
 3912 東京医科大学病院
 3913 東京慈恵会医科大学附属病院
 3914 東京女子医科大学病院
 3915 東邦大学医療センター大森病院
 3916 昭和大学病院
 3917 東京医科歯科大学医学部附属病院

3918 東京大学医学部附属病院
 3919 杏林大学医学部付属病院
 3920 帝京大学医学部附属病院
 3921 聖マリアンナ医科大学病院
 3922 北里大学病院
 3923 東海大学医学部附属病院
 3924 横浜市立大附属病院
 3925 東京医科大学霞ヶ浦病院
 3926 獨協医科大学越谷病院
 3927 埼玉医科大学総合医療センター
 3928 自治医科大学附属大宮医療センター
 3929 帝京大学ちば総合医療センター
 3930 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
 3931 東京慈恵会医科大学附属柏病院
 3932 東邦大学医療センター佐倉病院
 3934 駿河台日本大学病院
 3935 東京慈恵会医科大学附属第三病院
 3936 東邦大学医療センター大橋病院
 3937 東京慈恵会医科大学附属青戸病院
 3938 東京女子医科大学東医療センター
 3939 日本医科大学多摩永山病院
 3940 日本大学医学部附属練馬光が丘病院
 3941 東京医科大学八王子医療センター
 3942 順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター
 3943 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
 3944 昭和大学藤が丘病院
 3945 横浜市立大学附属市民総合医療センター
 3946 日本医科大学武蔵小杉病院
 3947 北里大学東病院
 3948 帝京大学医学部附属溝口病院
 3949 昭和大学横浜市北部病院
 4058 公立学校共済組合東海中央病院
 4079 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院
 4080 総合病院南生協病院
 4901 浜松医科大学医学部附属病院
 4902 新潟大学医歯学総合病院
 4903 山梨大学医学部附属病院
 4904 信州大学医学部附属病院
 4905 富山大学附属病院
 4906 金沢大学病院
 4907 金沢医科大学病院
 4908 福井大学医学部附属病院
 4909 名古屋大学医学部附属病院
 4910 名古屋市立大学病院
 4911 愛知医科大学病院
 4912 藤田保健衛生大学病院
 4913 岐阜大学医学部附属病院

4914 三重大学医学部附属病院
 4917 順天堂大学医学部附属静岡病院
 5026 淀川キリスト教病院
 5081 大阪府済生会千里病院
 5901 京都大学医学部附属病院
 5902 京都府立医科大学附属病院
 5903 関西医科大学附属滝井病院
 5904 大阪医科大学附属病院
 5905 大阪市立大学医学部附属病院
 5906 大阪大学医学部附属病院
 5907 近畿大学医学部附属病院
 5908 和歌山県立医科大学附属病院
 5909 兵庫医科大学病院
 5910 神戸大学医学部附属病院
 5911 近畿大学医学部堺病院
 5912 近畿大学医学部奈良病院
 5913 奈良県立医科大学附属病院
 5914 滋賀医科大学医学部附属病院
 6009 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
 6042 福山市民病院
 6043 広島県厚生農業共同組合連合会尾道総合病院
 6901 徳島大学医学部歯学部附属病院
 6902 香川大学医学部附属病院
 6903 高知大学医学部附属病院
 6904 愛媛大学医学部附属病院
 6905 岡山大学医学部・歯学部附属病院
 6906 川崎医科大学附属病院
 6907 広島大学病院
 6908 鳥取大学医学部附属病院
 6909 島根大学医学部附属病院
 6910 山口大学医学部附属病院
 6911 川崎医科大学附属川崎病院
 7038 独立行政法人国立病院機構九州医療センター
 7039 医療法人天神会新古賀病院
 7901 産業医科大学病院
 7902 久留米大学病院
 7903 九州大学病院
 7904 福岡大学病院
 7905 佐賀大学医学部附属病院
 7906 熊本大学医学部附属病院
 7907 長崎大学医学部・歯学部附属病院
 7908 大分大学医学部附属病院
 7909 宮崎大学医学部附属病院
 7910 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 7911 琉球大学医学部附属病院
 7912 福岡大学筑紫病院

10. 平成20年度病理専門医研修施設（登録施設）更新機関

（第1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, 15, 17, 19, 21, 23, 25, 27, 29
 100施設）

期間2年間 平成20年4月1日～平成22年3月31日

第1回 認可（13施設）

登録番号	施設名
2004	福島県立会津総合病院
3001	社会福祉法人恩賜財団済生会支部栃木県済生会宇都宮病院
3009	独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
3013	東京都教職員互助会三楽病院
3020	青梅市立総合病院
3021	国家公務員共済組合連合会立川病院
3022	独立行政法人国立病院機構災害医療センター
3026	平塚市民病院
4008	名鉄病院
4017	市立四日市病院
4019	市立伊勢総合病院
7005	日本赤十字社長崎原爆病院
7007	独立行政法人国立病院機構別府医療センター

第3回 認可（1施設）

認定番号	施設名
5022	兵庫県立柏原病院

第5回 認可（2施設）

認定番号	施設名
3035	国家公務員共済組合連合会九段坂病院
5029	医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院

第7回 認可（2施設）

認定番号	施設名
3042	千葉県救急医療センター
3043	JFE健康保険組合川鉄千葉病院

第9回 認可（3施設）

認定番号	施設名
4037	佐久市立国保浅間総合病院
4039	国家公務員共済組合連合会名城病院
4040	総合病院中津川市民病院

第11回 認可（2施設）

認定番号	施設名
4045	みなと医療生活協同組合協立総合病院
7031	唐津赤十字病院

第13回 認可 (2施設)

認定番号	施設名
1006	独立行政法人国立病院機構道北病院
4051	医療法人社団健和会健和会病院

第15回 認可 (4施設)

認定番号	施設名
3070	(財) 東京都保健医療公社東部地域病院
4056	山田赤十字病院
4057	松阪市民病院
6020	岡山労災病院

第17回 認可 (3施設)

認定番号	施設名
3074	医療生協さいたま生活協同組合埼玉協同病院
4061	豊川市民病院
5048	市立伊丹病院

第19回 認可 (8施設)

認定番号	施設名
1009	国家公務員共済組合連合会斗南病院
4069	榛原総合病院
4070	飯田市立病院
4071	大垣市民病院
4072	羽島市民病院
5050	社会保険京都病院
5051	加西市立加西病院
7041	今給黎総合病院

第21回 認可 (8施設)

認定番号	施設名
1011	美唄労災病院
1014	医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
3084	放射線医学総合研究所重粒子治療センター
4075	西尾市民病院
5056	高槻赤十字病院
5059	兵庫県立こども病院
6035	医療法人近森会近森病院
7043	医療法人親仁会米の山病院

第23回 認可 (6施設)

認定番号	施設名
1019	医療法人王子総合病院
2018	岩手県立大船渡病院
3086	草加市立病院
4079	独立行政法人労働者健康福祉機構新潟労災病院
4080	一宮市立市民病院

7048 社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院

第25回 認可 (15施設)

認定番号	施設名
1013	医療法人母恋日鋼記念病院
2020	公立刈田総合病院
2021	宮城県立がんセンター
2022	仙台社会保険病院
2023	大崎市民病院
3094	(財) 結核予防会複十字病院
3095	独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
4085	長野市民病院
4086	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院
5069	大阪府済生会富田林病院
5070	市立枚方市民病院
5071	明石市立市民病院
5072	赤穂市民病院
5073	独立行政法人国立病院機構姫路医療センター
6030	医療法人里仁会興生総合病院

第27回 認可 (7施設)

認定番号	施設名
4093	岐阜県厚生農業協同組合連合会中濃厚生病院
5079	泉大津市立病院
6047	国家公務員共済組合連合会高松病院
6048	高知県立幡多けんみん病院
7051	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
7052	医療法人沖縄徳洲会南部徳洲会病院
7053	医療法人かりゆし会ハートライフ病院

第29回 認可 (24施設)

認定番号	施設名
1029	医療法人彰和会北海道消化器科病院
1030	北海道社会事業協会小樽病院
2029	JA 秋田厚生連秋田組合総合病院
3080	国立療養所多磨全生園
3111	(財) ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院
3901	東京大学医科学研究所附属病院
3902	東海大学医学部付属東京病院
3903	東海大学医学部付属八王子病院
3904	東海大学医学部付属大磯病院
4091	金沢市立病院
4096	公立松任石川中央病院
4097	南砺市民病院
4901	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
5081	大阪府済生会茨木病院

- 5082 兵庫県立加古川病院
- 5901 関西医科大学附属枚方病院
- 6015 徳島市民病院
- 6034 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院
- 6051 山口県済生会下関総合病院
- 6052 社会保険下関厚生病院
- 7055 独立行政法人国立病院機構小倉病院
- 7056 医療法人社団高邦会高木病院
- 7057 長崎県済生会病院
- 7058 長崎県立島原病院

11. 常任理事会報告（4月～6月）

◎第1回（平成20年4月21日（月））

1. 人材育成委員会（仮）を正式に「人材育成委員会」とし、上田委員長推薦の委員を了承した。また、「診断講習会委員」については、5月の病理専門医制度運営委員会に諮ることとした。各種委員会委員を理事会に諮り了承を得ることとする。
2. 標榜科、診療報酬改定についてはご尽力いただいた各方面へ挨拶をすることとした。
3. 死因究明に関する厚生労働省3次試案 パブコメについては、理事会の意見も入れた黒田理事作成案を検討した。さらに修正を加えた後、4月中に提出した。
4. 地域病理ネットワーク小委員会については廃止の方向とする。そのほか「小」委員会とある委員会から「小」を除くことを理事会に提案することとした。
5. 病理コンサルテーションの国立がんセンターとの協力体制については、コンサルテーション小委員会委員長と国立がんセンターの担当者が検討しているが、現時点でそのままの運用形態での協力体制は困難なようである。
6. 向井清理事より提案された選挙制度改革案につき検討し、新公益法人法に照らしてさらに改革案を検討してもらうこととした。また、学術評議員のあり方につき総会で説明した後アンケート調査をすることとした。
7. 市民公開講座検討委員会については「企画委員会」の下に位置づけ、岡田理事を委員長とし構成委員を了承した。
8. 100周年については、発起人と実行委員に委嘱状を送ることとする。また、発起人の名前を入れて、100周年記念事業の立ち上げを会員に正式に宣することとした（後日寄付を募ることも視野に入れて）。
9. Pathology International オンライン化については、さらに検討を進め、来年には最終決定とすることとした。また「診断病理」のオンライン化については、現時点では編集委員会では反対であるが、オンライ

ン化した場合の発行費用の減額分について、調査することとした。

10. 病理専門医部会のあり方

大学病院病理部連絡会を含めて改組（研修施設代表者会議）する方向を提案することとした。

◎第2回（平成20年6月3日（火））

1. 情報の伝達方法としてのメーリングリストについては、支部長にリストの構築に向けての検討を依頼することとした。
2. 病理の標榜科についてモデル等の提示を検討し、会員に紙ベースで郵送するようたたき台を黒田理事が作成することとした。
3. 剖検輯報の科研費への申請ポイントとしては公開性（国民への還元）、国際性などが重要であるとの情報から、次回申請への参考とすることとした。これに関連して、従来外来死亡は入院患者剖検率の分母・分子に加えていなかったがこのたびの診療報酬改定で外来死亡が入院患者とされたことから、院内剖検率の算出方法につき問い合わせがあった。病理専門医制度運営委員会に諮ることとした。
4. 人材育成委員会（上田真喜子委員長）ではアンケートを計画しているので、次回常任理事会までに具体的なアンケート文案の提示を依頼することとした。
5. IAP 日本支部の学術奨励賞の外部委員として、中沼安二学術評議員を推薦することとした。
6. 日本小児がん学会の「小児がん全数登録協議会」の委員として田中祐吉学術評議員を推薦することとした。
7. 新公益法人については日本学術会議より提言が出されたので、参照することとした。
8. 学術評議員のあり方については、総会時に提示したとおり全会員に対してアンケート調査をすることとした。
9. 新公益法人化など今後の病理学会の対応を見据えて、機構検討委員会（仮称）を発足させることとした。
10. 100周年記念事業については、7月16日に記念誌刊行委員会が開催される。
11. 税務調査については平成19年度分の申告・納税を行った。平成16年度～18年度分については、現在計算中であり、6月中には申告・納税の予定である。
12. Pathology International のオンライン化については、刊行費の軽減が会費の値下げに反映できるよう、出版社と交渉中である。
13. 市民公開講座検討委員会では、市民公開講座は学術集会の中で設定し、学会長と連動してテーマを考え、委員会で検討することとしている。

14. 病理診断講習会は清水道生委員長および森谷卓也委員の他に委員を5名決める必要があります, 病理専門医制度運営委員会に諮ることとした。

12. 会員の訃報

以下の方がご逝去された。

金田 良夫 学術評議員 (平成20年1月20日ご逝去)

お知らせ

1. 2007年度朝日賞候補者の推薦について

申込み締切り: 2008年8月29日

連絡先: 朝日新聞社事業本部メセナ・スポーツ部「朝日賞」事務局

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL: 03-5540-7453 FAX: 03-3541-8999

2. 平成20年度上原賞(研究業績褒賞)受賞候補者の推薦について

申込み締切り: 平成20年9月10日

連絡先: (財)上原記念生命科学財団

〒171-0033 東京都豊島区高田3-26-3

TEL: 03-3985-3500 FAX: 03-3982-5613

E-mail: uehara-f@jade.dti.ne.jp

3. 平成20年度(第30回)沖縄研究奨励賞推薦応募について

申込み締切り: 平成20年9月30日

連絡先: (財)沖縄協会「沖縄研究奨励賞」事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-6-15

TEL: 03-3580-0641 FAX: 03-3597-5854

E-mail: fvgm0090@nifty.com

4. 平成20年度「風戸賞」および「風戸研究奨励金」の公募について

申込み締切り: 平成20年10月31日および平成20年12月19日

連絡先: (財)風戸研究奨励会 事務局

〒196-8558 昭島市武蔵野3-1-2 日本電子(株)内

TEL: 042-542-2106 FAX: 042-546-9732

E-mail: kazato@jeol.co.jp

5. 2009年度女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」受賞候補者の推薦について

申込み締切り: 2008年11月30日

連絡先: 女性科学者に明るい未来の会

〒247-0022 横浜市栄区庄戸5-14-3

E-mail: saruhashi2008@saruhashi.net

コンサルテーション事務局夏休みのお知らせ

平成20年8月9日(土)から19日(火)の期間, コンサルテーション事務局は夏休みをいただきます。ご迷惑をおかけいたしますが, ご了承下さいますようお願い申し上げます。